

情報公開文書

聖隷三方原病院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた検体やカルテ記録を利用することによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究の計画や方法について詳しくお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ記録を利用することをご了解いただけない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 高度催吐リスクレジメンにおけるホスネツピタントの有効性の評価

[研究機関名] 聖隷三方原病院

[研究機関の長] 山本貴道

[研究責任者] 薬剤部 外山巧海

[研究の概要]

■ 目的・方法（研究期間も含む）

研究期間：2024年2月2日～2024年3月31日

目的：注射剤制吐薬であるホスネツピタントが悪心・嘔吐の副作用が多い薬物を使用する化学療法において、現在使用されている内服薬制吐剤のアプレピタントと比べて制吐作用が同等であるかを調査する。

方法：

①悪心・嘔吐の副作用が多い化学療法において、ホスネツピタントの有効性をCR率（悪心・嘔吐の発生がなかった割合）から評価する。

②悪心・嘔吐の副作用が多い化学療法であるAC療法、mFOLFIRINOX療法でのホスネツピタント使用時とアプレピタント使用時のCR率からホスネツピタントの有効性を評価する。

■ 対象となる患者さん

2022年1月～2023年12月に悪心・嘔吐の副作用が多い化学療法を実施した患者さん

■ 研究に用いる試料・情報の種類

試料：なし

情報：臨床所見（CR率、年齢、性別、身長、体重、既往歴、併用薬剤、癌腫、化学療法歴、相対治療強度、喫煙歴、飲酒歴）

血液所見（AST、ALT、SCr、eGFR、BUN、Na、K、Ca、Mg、P、Cl、ビリルビン、白血球数、赤血球数、血小板数、好中球数、Hb、CRP）

嘔吐のリスク因子の要因となるものを調査するために臨床所見、血液所見を用いる。

[問い合わせ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先]

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院

薬剤部 外山巧海

電話 053-436-1251 FAX 053-438-2971